

平成31年度 防衛大学校入校式
防衛副大臣訓示

本日ここに、防衛大学校本科及び研究科の入校式が挙行されるにあたり、防衛副大臣として一言申し上げます。

新入生の皆さん、入校おめでとう。

また、本日ご参列いただきました新入生の御家族の皆様におかれましても、このようなすばらしい日を迎えられたことに心からお祝いを申し上げます。本科入校生の皆さん、皆さんは、これから4年間、ここ小原台において、集団生活をおくりながら、将来、部隊の指揮官などを担う幹部自衛官となるべき資質を磨いていくこととなります。

この間、一般の大学では経験しない戸惑いや不安もあると思いますが、國分学校長をはじめとする防衛大学校の教職員、学生生活を共にする諸先輩や、本日から仲間になる同期の存在が、必ずや皆さん一人一人の心の支えになるはずです。

そして、この防衛大学校での4年間の経験は、皆さんを、将来の幹部自衛官として、また一人の社会人として、大きく成長させてくれるものと思います。

そのためにも、高き志をもって学業と訓練に励み、自分の殻を打ち破り、その先の無限の可能性に向け、日々努力することを期待します。

研究科入校生の皆さん、皆さんがこれから学ぼうとしている科学技術や安全保障の分野は、時代とともに大きく変化し、その変化の速度はますます速くなっています。その変化に応じた的確に対応していくことが、防衛省・自衛隊に求められます。

皆さんには、本校においてそれぞれの分野における高度な専門的知識を修得し、修了後は、それぞれの持ち場において、その修得した専門的知識を十分に発揮することを期待します。

留学生として来られた皆さん。この防衛大学校に留学されたことを、心から歓迎いたします。

生まれ育った母国とは異なる環境にとまどうこともあると思いますが、ここにいる仲間と共に生活していくことで、少しずつ日本での生活に慣れるとともに

に、学生として立派な成果を収めて欲しいと思います。

そして、仲間とともに歩む学生生活を通じ、終生変わらぬ友情を育み、留学生の皆さんの母国と我が国との友好がより一層深まっていくよう、一人一人が架け橋となつていただくことを切望します。

冷戦終結とともに始まった平成の30年間、わが国を取り巻く安全保障環境は大きく様変わりしました。特にこの数年は、国際社会のパワーバランスの変化の加速化や技術革新などによって、これまでに比べ格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増しています。

この厳しい安全保障環境下にあっても、将来に渡り、国民の生命と平和な暮らしを守り抜く。昨年12月、わが国の未来の礎となる防衛の在るべき姿を示す、新たな防衛計画の大綱を策定しました。

安全保障の現実から向き合い、平和国家としての歩みを堅持したうえで、従来の延長線上ではない真に実効的な防衛力を構築する。

そのためには、陸・海・空という従来の区分に基づく発想から完全に脱却し、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域を含む全ての領域を横断的に連携させた、「多次元統合防衛力」の構築に向け、従来とは抜本的に異なる速度で変革を進めなければなりません。

先の防衛大学卒業式において、安倍総理は「昨日までの「常識」を常に、疑って下さい。そして時代に応じて「変化」することを恐れないでほしいと思います。」と述べられました。

諸君の先輩たる自衛官の、国民を守るための警戒・監視、災害時の人命救助や様々な救援活動、さらには復興支援での獅子奮迅の活躍によって、自衛隊の存在は、国民は多大な信頼と期待を寄せております。

入校生の皆さん、これから平成から令和へと新たな時代を迎えることとなりますが、皆さんはこの新たな時代の中核を担う人材であります。常に変化する安全保障環境の中で、引き続き国民の期待に応えるためにはどうすればよいか、そのためには、幹部自衛官としてどうあるべきか、防衛大学校での勉学と訓練を通じ、一人一人が自らに対して、また、お互いの議論の中で、問い続け、探求していただくことを通じ、知・徳・体すべてを磨き続けていただきたいと思います。

日頃から防衛大学校そして防衛省・自衛隊に対し、多大なる御理解・御協力を賜っております御来賓の皆様、御多忙の中を本入校式に御出席いただきましたことを深く御礼申し上げます。

最後になりますが、國分学校長をはじめとする教職員が、本日御列席の御来賓、御家族の皆様にご恥ずることのない、最高水準の教育並びに、情熱と愛情に溢れた訓育及び指導を行うことを確信するとともに、ここにいる入校生の皆さんがこの防衛大学校でよく学ばれ、今後大いに活躍されることを祈念し、私の訓示といたします。

平成31年4月5日
防衛副大臣 原田 憲治